

テトスへの手紙

ギリシャ人クリスチャンであるテトスは何年もの間  
信頼のおける同労者としてパウロの宣教旅行に同行していました  
彼はそれまで何度も危機的な状況にあるパウロを助け  
この手紙の中ではギリシャの沖にあるクレタという大きな島で  
そこにある複数の家の教会をきちんと組織し直す任務を与えられています  
この時代クレタの文化は悪名高く  
ギリシャ語には嘘つきを意味するクレティゾー  
つまりまるでクレタ人という言葉があるほどでした  
クレタ人は信頼できず強欲だという評判で  
島の男性のほとんどはお金のために傭兵になり  
島の治安は悪く暴力と性的墮落に満ちていました  
しかしこの島には古代地中海世界のたくさんの街にとって  
非常に重要な港がたくさんあったのです  
パウロから見ればそれは教会のネットワークを作るのに最適な土地でした  
何があったのか詳しくはわかりませんが  
これらの教会は偽教師たちの影響を受けてしまったようでした  
彼らは自分たちはクリスチャンだと言いながら  
教会を墮落させていました  
それでパウロはテトスにクレタの教会を再建するという任務を  
与えこの手紙で指示しているのです  
本書の構成はシンプルです  
短い導入のあとパウロはテトスに  
教会での任務について明確な指示を出しています  
次に新しい家族の在り方と福音によって  
このクレタの教会に生み出される新しい生き方について助言をしています  
そして最後のあいさつでこの手紙は閉じられています  
パウロは冒頭でテトスに使徒としての彼のメッセージは  
永遠の命の希望であり  
それはメシアであるイエスを通して与えられた  
新しい創造の命であることを思い起こさせています  
この希望はずっと昔に嘘をつくことのない神によって約束されたものです  
この短い導入には本書全体を貫く大事なテーマが込められています  
クレタの教会の問題点の一つは  
彼らがキリスト教の神であるイエスと  
彼らにとってなじみ深いギリシャの神  
その中でも一番上位のゼウスとを混同していたことでした  
クレタの人々はゼウスはこの島で生まれたと主張しており  
ゼウスの狡猾さや女性を誘惑し嘘をついて自分のものにするような  
性質についての神話を語るのが好きでした  
イエスを通してご自分を表された神は  
ゼウスとは全く違うということをパウロははっきりさせたがっていました  
神の基本的なご性質は誠実さと真実なのです  
ですからクリスチャンの生き方もそうあるべきで  
それはクレタ人の従来生き方とは正反対です  
そこでパウロはテトスに2つの任務を与えています  
ひとつめは

各教会に長老と呼ばれる指導者のチームを置くことです  
長老たちは良き夫や良き父でありクレタ人とは全く違う生き方をする人で  
人格者として知られイエスに献身しており自制心があり  
家族にも共同体にも寛容な人でなければなりません  
この指導者たちがイエスの良い知らせを教え  
対決すべき偽教師たちにとって代わることに  
それが二つ目の任務です  
パウロは偽教師たちのことを割礼を受けた者と呼んでいます  
つまり彼らは民族的にはユダヤ人ですが  
クレタに住んでいてイエスに従う者だと自称していました  
しかしガラテヤ教会の偽教師たちと同じく  
彼らも非ユダヤ人のクリスチャンに対して  
もしメシアなるイエスに従いたいなら  
トーラーの掟に従って割礼を受けなければならないと言っていたのです  
彼らはユダヤの神話や人間の命令に振り回されていて  
そのうえ教会の指導者になることで金儲けをしているとパウロは言っています  
そしてエピメニデスという古代クレタ人の詩を引用しました  
この詩人は自分の民族について非常に率直にこう書いています  
クレタ人は嘘つきで悪い獣で怠け者の大食漢  
彼らは真実と嘘善と悪の境をあいまいにし  
金儲けのことばかり考えていました  
だからこの指導者たちは神を知っていると言っても  
彼らのクレタ式の生き方がそれを否定していたのです  
パウロはこの問題の対処について次のセクションに書いています  
偽教師たちのせいでクレタの教会のクリスチャンたちの多くは  
家庭生活も自分の生き方もめちゃくちゃになっていました  
そのことがもたらす影響をパウロは3回も述べています  
すなわちイエスのメッセージの信用が傷つけられ  
ノンクリスチャンからいいように非難され  
救い主である神についての教えの魅力が損なわれ  
誰にも受け入れられなくなってしまうということです  
そこでパウロは  
イエスに真心から従うクレタ人の理想の家庭像を描いてみせます  
それは自制心のある高潔な年長の夫婦の家庭で  
彼らが若い人たちのお手本になるということです  
また若い女性たちはそのころクレタで流行っていたように  
結婚を避けて複数の男性と関係をもつようなことはせず  
誠実な伴侶を見つけ安定した健全な家庭を築くべきだとパウロは言います  
若い男性も同じようにして建設的で健全な市民であるべきです  
クレタに住む奴隷たちは独特な立場にいました  
というのもパウロが建てた教会の中では彼らは福音のゆえに  
自由人と同等の扱いを受けていたからです  
しかしそこには彼らがそれをいいことに主人を軽んじたり  
反乱に参加したりすることによって  
イエスの教えの信用を傷つける危険が潜んでいました  
パウロはここで絶妙な境界線を引いているのです  
彼はイエスの福音によってクレタ島の文化を変えるためには

公共の場でその贖いの力を示さなければならぬと思っていました  
しかしそれは社会を混乱させるものではなく  
浮世離れしたクリスチャンによるものでもないのです  
責任をもってこの社会でいきているクリスチャンの生活様式や  
家庭生活が一見したところ他のクレタ人と同じようでも  
よく知り合ってみるとギリシャの神とは全く違う神への信仰により  
全く違う価値観を持っていることがわかると  
クレタ人にもキリスト教のメッセージが伝わるのです  
パウロはそのことを2章の終わりに簡潔にまとめています  
すなわちクリスチャンの生き方を決める価値観とは  
人となったイエスを通して現わされた神の豊かな恵みに基づき  
それはイエスの再臨の時に再び現わされるということです  
この恵みはイエスをご自分の栄光を捨て  
敵のために恥にまみれて死に彼らを救い贖ったことを通して現わされています  
そして神の民に神の豊かな愛にそぐわない墮落した生き方を拒絶せよ  
と呼びかけることができるのもこの恵みです  
パウロは次にクリスチャンの家庭生活から話を広げ  
新しい人間としてクレタの社会で生きることについて述べます  
クリスチャンはみな理想的な市民であるべきで  
平和的で寛容で権威に従い社会のためになることを追い求めなければなりません  
それはクレタ人が育ってきた社会とはかけ離れたものです  
クリスチャンはどうすればその文化にあらがって生きることができるのでしょうか  
福音が伝える三位一体の神の愛で変えられることによってです  
パウロはそれを美しい詩を通して教えています  
神の慈しみと愛は罪深い私たちを救い聖霊を通して  
私たちをきよめ生まれ変わらせ  
新しくされた人間はイエスを通して神の前に義と認められました  
それによって永遠のいのち新しい創造に基づく新しい未来の道が開かれたのです  
この命と力に満ちた物語は新しい人間を生み出します  
聖霊に力を受けてイエスの教えに忠実になった者は  
神の恵みをクレタ島と世界のすべてに告げ知らせるとパウロは信じていました  
パウロはアルテマスかティキコを応援として送ることを約束し  
テトスとの共通の友人へのあいさつを記してこの手紙を閉じています  
テトスへの手紙はパウロの宣教方針を示しています  
それは教会は地域に対し人は生まれ変われることを示す場であるべきということです  
異文化に対して戦いを挑んだりクレタ人の生き方に同化するものではありません  
むしろ知恵を用いてクレタの社会に参加し  
墮落は拒絶し良いものは取り入れるよう勧めています  
もしクリスチャンが平和を愛しイエスと社会のためになることに身をささげるなら  
救いの神のメッセージの美しさを伝える事ができるとパウロは言っています  
これがテトスへの手紙です

## 【要約】

パウロの手紙は、ギリシャ人クリスチャンのテトスに宛てられており、テトスは長い間パウロの信頼のおける同労者として活動していました。この手紙では、テトスに、クレタという島にある複数の教会を再建する任務が課せられています。クレタの文化は悪評高く、偽教師たちの影響を受け、クリスチャンの生き方と信仰に乱れが生じていました。パウロはテトスに、新しい教会の指導者を育て、クレタのクリスチャンたちにイエスの教えに従う新しい生き方を示すよう指示しています。手紙は、クリスチャンの価値観とギリシャの神々との違い、家庭生活、社会での行動についての教訓を伝えています。最終的に、手紙は福音の力と神の愛によってクレタの社会を変え、新しい人間として生まれ変わる道を示しています。クリスチャンは異文化に対抗せず、知恵を用いて社会に参加し、墮落を拒絶し、良いものを取り入れるべきだというメッセージを伝えています。